

わらべうた講座

わらべうたは豊かな言葉の世界—子供と本をつなぐために—

講師：石川 道子

(おはなしアンサンブル)

今年度は、実行委員4名で企画(実行委員会2回開催)。石川道子さんにわらべうたの素朴さ、わらべうたが本来もっている歌の力についておはなしいただき、実践しました。

わらべうたは何百年も前から人から人へと伝えられてきたものです。今日はみなさんにわらべうたってこんなに楽しいものなんだということを知ってもらい、それを子供たちにも教えてあげて、広めていってほしいと思います。

【導入】

♪「じーかいて、ぽん！」 スキンシップを大切に。単純だけれど効果てき面。

♪「どの子が良い子？この子が良い子！」

語尾を上げて、言葉に表現をつけて歌いましょう。



【手遊び】

♪「いちびり子 憎まれ子 さべり子 ～」

♪「この子ブタちゃんは、市場へ行った。～」

マザーグースがもとになっています。小さい子向け。

♪「こどもとこどもと けんかして、おやー

が言っても ききません。～」

両手を使って小指、親指、人差し指と順番にくっつけていく。大きい子向け。できるようにやってあげないと子供は覚えることができません。もしできない子がいればゆっくりとやってあげてください。

♪「いっぷでっぷ」 鬼決めの歌

【おもいも】

♪「いーもに 芽が出て、葉が出て ほうい！」  
グーチョキパーでじゃんけんぽん

♪「いっちく たっちく たえもんさん～」  
たえもんさんは鹿児島言葉で里芋の大きいもののこと

♪「いもやおじさん」

2人1組でくすぐり合いっこ

絵本：『おおきなおおきなおもいも』(赤羽末吉 さく・え 福音館書店)

詩：「いもくって ぶ」(『おならうた』谷川俊太郎原詩 絵本館)

【ねずみ】

♪「ねーずみねーずみ どーこ行きや？～」

詩：「どんぐり」こねずみしゅん作(『のはらうた1』くどうなおこ作 童話屋)

絵本：『ねずみのいえさがし』、『ねずみのともだち』(ヘレン・ピアス さく 童話屋)

【体を使った遊び】

♪「一匹ちゅう」 ひとつずつの言葉や動作をはっきりと行いましょう。応用：ねこをおこさないように静かに歌う。

♪「山からころころ」

♪「どうどうめぐり～」 2人がトンネルをつくり、他の人は歌いながらそこを通過していく。歌の「かっちんこ」の部分で手を下し、うでとうでの間に1人捕まえる。小さい子とやるときには屈伸するだけ。昔はこのような遊びから周りを見て、今はこうだ、次はこうなるんだというように、考える力を学んでいたように感じます。

♪「おみやげみつつ たこみつつ、～」

となりの人の肩をたたきましょう



《わらべうたをする上で大切なこと》

- ①高い声、愛情を込めた声で歌いましょう。マザリング「すきすき」というような声。声が出ているか自分でちゃんと聞きましょう。
- ②年齢が低ければ低いほどゆっくりと歌いましょう。親子で来てくれた時は、お母さんたちにも歌ってもらおうよう促すことが大事です。
- ③繰り返し歌いましょう。最低5回とは言いましたが、何度でも歌ってください。子供は、1回目で聞き、2回目で納得し、3回目で予想し、4回目で分かり、5回目で自分から歌うようになります。繰り返しが命です。
- ④子供の様子を良く見ましょう。できているか、面白がっているかなど、子供の心を探り、きちんと相手を見ましょう。ゆっくりしてみ、それでもできない子がいるときは無理をせず、やめましょう。
- ⑤おはなし会のプログラムを作るときは、次の会にも同じものを入れましょう。知っているものほどうれしいものはありません。いつも新しいものばかりでなくて良いのです。
- ⑥わらべうたは、言葉を聞こうとする耳を作ります。一緒に覚えたいくなるものです。また、わらべうたは気持ちを解放してくれ、リラックスさせる効果もあります。そのあとで、絵本・詩・すばなしをすれば、子供はより集中してくれるでしょう。そのため、プログラムを組む時は、わらべうたはわらべうた、絵本は絵本で分け、交互にはやらない方が良いと思います。

### 【くま】

- 詩：「やまのこもりうた」こぐまきょうこ作  
 『のはらうた1』くどうなおこ作 童話屋  
 ♪「どんぐりころちゃん」あてっこゲーム  
 絵本：『せきたやのくまさん』（フィービ・ウォージントンさく・え 福音館書店）  
 『くんちゃんのだいらょこう』（ドロシー・マリノ文・絵 岩波書店）  
 『くまのコールテンくん』（ドン＝フリーマンさく 偕成社）  
 『二ひきのこぐま』（イーラ作 こぐま社）

### 【とり、ねこ】

- 歌：「赤い鳥小鳥」北原白秋詩 成田為三作曲  
 絵本：『しろ、あか、きいろ』（ディック・ブルーナぶん・え 福音館書店）  
 ♪「うちの家のくろねこは〜」  
 絵本：『ちいさなねこ』（石井桃子さく 横内襄え 福音館書店）  
 『ねこがいっぱい』（グレース・スカールさく 福音館書店）

- ⑦わらべうたのカードをぜひ作ってください。カードを作ることで、自分で間違ったところなどを確認することもできますし、プログラムを作る上でも参考になります。
- ⑧最後にちゃんとしっかり覚えること。これが何より大事です。子供たちが言葉を聞く姿を、みなさんにしっかりと見ていただき、わらべうたを歌う時もそれを大事にしてもらいプログラムを組んでいただけたらと思います。

主な参考図書：『わらべうたであそぼう』『いっしょにあそぼうわらべうた』（ともにコダーイ芸術教育研究所編 明治図書出版）、『うたおう あそぼう わらべうた』（木村はるみ、蔵田友子著 雲母書房）、『あがりめさがりめ』（真島節子作 こぐま社）、『ぼくの絵本 わたしの絵本』（石川道子・平田美恵子・湯沢朱美編／著 プランニング遊）